

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第25週(6月16日～6月22日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	23週	24週	25週	25週	25週
インフルエンザ	0	0	0	1.18	0.27
新型コロナウイルス感染症	1.67	1.67	1.00	1.16	1.00
RSウイルス感染症	0	0	0	0.16	0.24
咽頭結膜熱	●3.50	0	2.00	0.55	0.73
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	3.00	5.00	3.35	2.60
感染性胃腸炎	5.00	4.00	3.50	4.61	5.81
水痘	0	0.50	0	0.71	0.44
手足口病	0	0	0	0.26	0.33
伝染性紅斑	0	1.00	0	1.48	2.53
突発性発疹	1.00	0	0.50	0.26	0.38
ヘルパンギーナ	1.50	0.50	2.00	2.00	0.62
流行性耳下腺炎	0	0	0	0.03	0.09
急性出血性結膜炎				0.38	0.03
流行性角結膜炎				2.50	0.87
細菌性髄膜炎	0	0	0	0.08	0.02
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.04
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0.08	0.50
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0.08	0.05

急性呼吸器感染症 (ARI)	39.67	29.67	38.67	55.16	51.93
----------------	-------	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】	感染性胃腸炎の感染予防に努めましょう。
第25週の報告数は143人で、前週より28人少なく、定点当たり報告数は「4.61」でした。地区別にみると、佐世保地区「10.50」、長崎地区「7.17」、西彼地区「6.33」は、他の地区より多くなっています。今後も動向に注意し、予防に努めましょう。 感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。予防には手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。	
【トピックス】	百日咳の報告が多くなっています。
百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。 2025年第25週には26件の報告があり、年代別では、10代(9人)、10歳未満(8人)が多くなっています。また、2025年第25週までの345件の報告においても、10代(182件、53%)、10歳未満(85件、25%)が多く、全体の約8割を占めています。感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。	
【トピックス】	腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう。
腸管出血性大腸菌感染症は、O157やO26をはじめとした「腸管出血性大腸菌」による感染症です。主な感染経路は、菌に汚染された食品や患者の便で汚染されたものに触れた手を介した経口感染です。2日から9日の潜伏期間の後、腹痛・水様性下痢・血便などの症状を呈します。無症状の場合もありますが、発症者の約6%から7%が、溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの合併症を起こし、時には死亡することもあります。特に、抵抗力が弱い小児や高齢者等は注意が必要です。 例年5月ごろから報告数が増加する傾向にあります。次の点に気をつけて感染予防に努めましょう。 また、症状があるときは速やかに医療機関を受診しましょう。 ○帰宅時やトイレ・オムツ交換の後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう ○肉類を調理する際は十分に加熱しましょう ○生肉を調理する際、器具は専用のものにするか、使用後すぐに十分な洗浄・消毒をしてから他の調理に使用しましょう ○下痢症状のあるときは入浴は控え、シャワー浴または最後に入浴しましょう	
長崎県県北保健所 地域保健課 健康対策班 TEL 0950-57-3933	